



すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう  
心情や場面の様子を味わいながら読み、  
効果的に用いられている表現について、自分の考えをまとめよう。

# 大造<sup>だいぞう</sup>じいさんとガン

椋鳩十<sup>むくはとじゅう</sup> 作

水上<sup>みずかみ</sup>みのり 絵

知り合いのかりゅうどにさそわれて、わたしは、イノシシがりに出かけました。  
イノシシがりの人々は、みな栗野岳<sup>くりのだけ</sup>のふもとの、大造じいさんの家に集まりました。  
じいさんは、七十二さいだというのに、こしひとつ曲がっていない、元気な老か  
りゅうどでした。そして、かりゅうどのだれもがそうであるように、なかなか話し  
上手の人でした。血管のふくれたがんじょうな手を、いろりのたき火にかざしなが  
ら、それからそれと、愉快<sup>ゆかい</sup>なかりの話をしてくれました。その話の中に、今から  
三十五、六年も前、まだ栗野岳のふもとのぬま地に、ガンがさかんに来たころの、  
ガンの話もありました。わたしは、その折の話を土台として、この物語を書い

現在は、ガンをかることは禁止されている。この作品は、ガンがりが禁止される前の時代の話である。

栗野岳

かごしま  
鹿児島県の北部にある、高さ一〇九四メートルの山。

愉快<sup>クイ</sup>

てみました。

さあ、大きな丸太がパチパチと燃え  
上がり、しょうじには自在かぎとなべの  
かげがうつり、すがすがしい木のおい  
のするけむりの立ちこめている、やまが山家の  
ろばたを想像しながら、この物語をお読  
みください。

1

今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、  
ぬま地にやって来ました。

残雪というのは、一羽わのガンにつけられ  
た名前です。左右のつばさに一か所ずつ、

10

5



●左サ  
●右ミ

○率ひきいる  
○群むれ